

# 青梅市文化財ニュース

第260号

平成21年6月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

## 神苑の森

武蔵御嶽神社の鎮座する森は、かつては樹齢300年を超す杉檜に囲まれ、4月中頃の夜には仏法僧の鳴く神秘的な山でした。

『武蔵名勝図会 多磨郡之部』に、『御祈禱鳥<sup>ごきとろう</sup> 春は三月より四月のはじめまで、秋は七、八月ごろ社頭のあたりに晴宵、暗夜ともに鳴けると云。その声「ゴキトウ」と唱うが如し。又、その形を見たるものなしと云。初夏に至りて杜<sup>ほととぎす</sup> 鶉声を発するに至れば、その啼声は止むと云。当山の一奇鳥なりと言ひ伝う。按ずるに当山は神社の名蹟ゆえに「御祈禱」と鳴く。同郡高尾山は仏境ゆえに「仏法僧」と鳴けるにぞ。』とあり、旧暦3、4月頃から鳴きだし、杜<sup>ほととぎす</sup> 鶉が渡ってくる新暦5月下旬には鳴かなくなるといわれていたようです。本来は「コノハズク」というフクロウ目の鳥の鳴き声なのですが、昭和の初めまでは時期も生息場所もほとんど同じ「ブッポウソウ」という青緑色のハトくらいの大きさの鳥の声とされていました。そのため「声の仏法僧」と「姿の仏法僧」などと使い分けられています。コノハズクの声は「ゴキトー」とも聞こえ、御岳山は神社ですので昔から御祈禱鳥ともいわれていました。

ブッポウソウ・コノハズクの生息地として有名であった御岳山では、毎年5月初旬「仏法僧の声を聴く会」が日本野鳥の会を創設した中西悟堂先生などを講師に迎え催されていました。しかし、昭和41年9月の26号台風で、神社の大木がなぎ倒されるとその声を聴く事がまれになり、平成12年を最後に姿を見せなくなりました。そして60年の長きにわたり続いた会も平成19年惜しまれつつその歴史を閉じました。

神社を訪れると、一昨年より本殿裏手の東京都指定有形文化財の旧本殿をはじめ数多くの撰末社を参拝できるようになりました。そして929mの山頂には<sup>おおくちまがみしゃ</sup>大口真神社が祀られ、その後方には台風の難を逃れた杉檜の大木がかつての面影を残し、この森で平成12年までは仏法僧が鳴いて、その声が山中に響き渡っていたのでした。

この神社西側の森は、今まで人の入ることのない深山幽谷の地でしたが、ここを周遊する新たな散策路が今年4月29日竣工し「神苑の森」と名づけられました。天狗の腰掛け杉がそそり立つ奥の宮入り口から右側に尾根をのぼり、神社の裏手を周回して鳥居前広場までの約600mの道程になります。ここは手つかずの自然がそのまま残されており、自然林の最終段階である<sup>きよくそうりん</sup>極相林に近い姿が残る森です。今ではコノハズクの姿はもとより声を聴くことはできませんが、この森に息づく動植物たちが四季折々にさまざまな姿を見せてくれる事でしょう。この森が今のまま長く子孫に受け継がれていきますよう、ここにある自然をそっと見守りながらご堪能ください。



図 武蔵御嶽神社 神苑の森